

平成30年度 行政視察報告書

平成31年1月30日（木）

チャレンジ岡崎・無所属の会 杉山 智騎

1. 視察日程

平成30年10月18日（木）～10月19日（金）

2. 視察先及び視察内容

（1）東京都北区

地域のきずなづくり推進プロジェクトについて

（2）埼玉県八潮市

八潮子ども夢大学について

3. 視察内容

■地域のきずなづくり推進プロジェクトについて

10月18日（木） 9:30～

i) 東京都北区

人口 34.1万人、面積 20.61km²

江戸時代には「飛鳥山の花見」「滝野川の紅葉」「王子稲荷の信仰」など、江戸町民の行楽地として賑わいをみせた。明治以降、大蔵省紙幣寮設置から製紙・薬品など近代工業発祥の地に。戦後、工業跡地が大規模住宅団地へと変わっていった。15年3月に「北区基本計画2015」を策定。「地域のきずなづくり」と「子育てファミリー層・若年層の定住化」を区の重要課題と位置付け、ファミリー世帯が住みやすい環境づくりを総合的かつ戦略的に推進し、地域コミュニティの活性化につなげていく。



ii) 地域のきずなづくり推進プロジェクトについて

・プロジェクトの背景

少子高齢化の進展、子育てファミリー層・若年層を中心とした若い世代の流出などにより、

地域社会の人口構成は大きく変化しています。特に、都市部で目立つ人口の流動化などの社会構造の変化は、地域のきずなや人と人とのつながりといった地域の連帯意識を希薄にさせ、無縁社会といわれるような社会的孤立や孤独死を引き起こすなど、大きな社会問題となっています。

・プロジェクトの目的

- 地域の「つながり」、「支え合い」の再認識と北区への愛着の醸成
- 地域活動への参加促進と新たな担い手の発掘・育成
- 町会・自治会と地域活動団体とが連携・協力できるしくみづくり



お互いに気づき、支え合う関係づくり

・北区の現状と課題を洗い出し、基本的方向性と取り組みを決めていく

基本的方向性① 生まれる

～多世代の地域活動への参加や交流の促進～

基本的方向性② つながる・ひろがる

～さまざまな活動団体が連携や協力できる環境づくり～

基本的方向性③ 支える

～地域情報の共有化や地域活動拠点の充実～

取り組み① 地域への愛着醸成と地域活動への参加促進

取り組み② 町会・自治会活動の活性化

取り組み③ 地域の社会資源同士の連携促進

取り組み④ 地域振興室の機能充実

・取り組み事例

- 北区きずなづくり月間のPR

北区地域のきずなづくりロゴマークを作り、のぼりや屋台を出店

- 地域の担い手育成講座の開催

外部の講師を呼んで、講座実施。
昼と夜に実施することによって、若い人も取り込む

- 町会・自治会の加入促進に関する協定の締結

協定書の締結式を行い、チラシを作り、区民に配布



●地域活動団体がつながる機会づくり

地域円卓会議を開催し、各団体のつながりを強化

iii) 所感

自分が子どもの頃は隣近所の付き合いが濃く、時には注意をされたり、相談に乗ってもらっていたりしたこともありましたが、しかし、最近は隣近所の方と挨拶はするが、会話をしたり、交流を深めることが減ってしまったと感じます。そこで、地域のきずなづくりは最も大切なことの一つと考えています。北区は「自分たちのまちは、自分たちでつくり、守る」を地域のきずなづくりの将来像として設定し、プロジェクトを発足しました。このプロジェクトの最もすばらしいところは、地域円卓会議を19地区で実施しているところだと思えます。地域円卓会議とは地域の団体（町会・自治会、PTA、民生委員、消防団、シニアクラブ、NPO 団体、商店街・企業など）が集まり、地域のことについて話し合うものです。行政として最初は旗振りをしていましたが、徐々に住民が主体的に会議を行うようになっていったのが素晴らしいと思えました。この地域円卓会議を行うことにより、問題点や課題を共通認識でき、そして、各種団体がつながることができます。本市もこの取り組みはやるべきです。各小学校単位で状況も全く違うので、一筋縄ではいかないと思いますが、必ず、地域力が向上するものです。しっかりと行政へ提案し、少しでも実践できるように進言していきます。

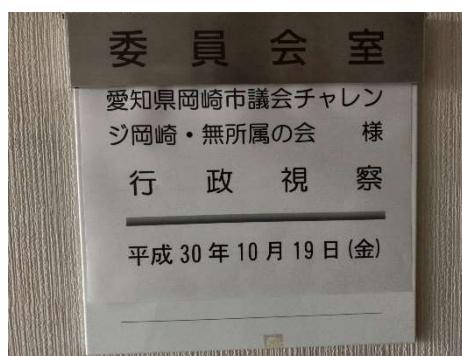
■八潮子ども夢大学について

10月19日（金） 10:00～

i) 埼玉県八潮市

人口 8.7万人、面積 18.02km²

埼玉県の東南部に位置する。かつては江戸の穀倉地帯で米や野菜中心の純農村だった。高度成長期以降、東京都心より約15kmという立地条件により、多数の工場が立地した。工場数は県内で川口市、さいたま市に次いで多い。長く鉄道空白地帯だったが、つくばエクスプレスの05年開通で利便性が大きく向上、近年は住宅都市化が進んでいる。



ii) 八潮子ども夢大学について

・夢大学とは

2002年にドイツのチュービンゲン大学で始まる

↓

2009年に日本で初めて「子ども大学かわごえ」が誕生

※埼玉県では、この取り組みをモデルとして平成22年度から、子どもの学ぶ力や生きる力を育むとともに、地域で地域の子どもの育てる仕組みを創るため、子ども大学の開校を推進しており、現在各地に広がっている。
各大学と連携し、小学校、中学校が様々なことを学ぶ。

・包括協定について

聖徳大学

- ・市民大学での講師
- ・相談所の運営の協力

国土舘大学

- ・こども防災マイスター
- ・図書館の指定管理の協力

淑徳大学

- ・資料館での体験学習の協力



・平成30年度 八潮こども夢大学について

●I期：4大学（24人） II期：4大学（19人）

●開校式 10月4日 八潮メセナにて

●内容

国土舘大学にて模型飛行機づくり体験（理工学部）

昭和大学にてカラービーズづくり体験（薬学部）

聖徳大学にて楽器の紹介や音探し、音づくり体験（音楽学部）

聖徳大学にて英語で自己紹介、英語での算数体験（語学教育センター）

ハリウッド大学院大学にてアロマストーンづくりとシャンプー体験（美容）

聖徳大学にて看護師の仕事の体験（看護学科）

東海大学にてコンピュータでの作曲とVR体験（情報通信学部）

淑徳大学にて年表作成を体験（人文学科）

国土舘大学にて模擬裁判を体験（法学部）

●修了式 12月20日 八潮メセナにて

iii) 所感

埼玉県は子ども大学に力をいれている県で、八潮市はこども夢大学として、子どもの将来の夢につながるよう各種大学で様々な体験を行なっている。各大学と教育委員会事務局の橋渡しは一般の方が大学連携室長として連携強化の役割を担っている。平成26年から事業が開始され、実際に八潮こども夢大学で学んだ大学へ入学した子どもがいると伺い、体験したことを実際の夢につなげる成果が垣間見えました。実際に体験した子ども達は「学んだ

ことを授業に生かしていきたい」「今回の大学にとっても興味をもちました」

「将来、人のためになる仕事がしたいと思った」など、とても前向きな感想が聞かれました。保護者からも「子どもたちにとって非常にいい経験になるので、このような機会を増やしてほしい」「この企画はとてもいいので、今後も継続してほしい」と事業に対しての高評価をえることができていると

感じました。本市にも大学はあり、同様なことは可能だと思います。夢大学とまでいなくても、小学生などが大学に行く環境（学祭などはあるが）をもっと作り、実際に大学で何をしているかを体験できると、もっと夢を持つ子が増えると思います。行政も子どもと大学、子どもと企業をつなぐ活動を活発化するような活動をしていただくことを要望いたします。

